

## 第4学年4組 音楽科学習指導案

指導者 橋爪 員枝

- 1 題材名 せんりつの重なりを感じとろう  
教材名 表現「パレードホッポー」(高木あきこ作詞 平吉毅州作曲)  
鑑賞「ファランドール」(ビゼー作曲)  
表現「もみじ」(高野辰之作詞 中野義見作曲)

### 2 題材について

《学習指導要領とのかかわり》

- A 表現 (1)イ 歌唱の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。  
エ 互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。

- B 鑑賞 (1)イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴くこと。

- [共通事項] (1)ア (ア)旋律、音の重なり  
(イ)反復、変化

#### (1) 題材観

本題材では、楽曲の構造に気を付けて聴く能力を育てるために、特徴付ける二つの旋律の反復や重なりに着目し、仕組みの面白さを感じ取り、聴いたり歌ったりする喜びを味わうことをねらいとしている。また、自分や友達の歌声を聴き合いながら、声を重ねる体験を通して、音楽の楽しさを味わい、そこで生まれる響きの美しさに気付かせたい。中学年の児童は、音の高さを聴き分ける能力が特に発達してくる。そこで、視唱や視奏の能力を伸ばし、視唱や視奏によって旋律の動きや旋律同士のかかわりを意識できることを通して、音楽表現を工夫する能力を身に付けるようにすることが重要である。ここでは、低学年において身に付けてきた音楽を形づくっている要素の関わり合いを感じ取って聴く能力を更に高め、音楽から感じ取ったことを身体の動きで表すなど、音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みの働きを把握するようにさせていきたい。

児童はこれまでに、既習の「パパゲーノとパパゲーナの二重唱」において、掛け合いや、重なりが生み出す面白さを味わって聴いている。また、「白鳥」の鑑賞では、チェロとピアノの音色や旋律の特徴の違いを感じ取ることができている。いずれも身体の動きや図形楽譜などを用いることで、音楽を形づくっている要素をとらえる学習を行ってきた。

そこで、本題材では、二つの対照的な旋律の違いや音の重なりを身体を使って主体的に感じ取ったり、旋律の重なり方が見て分かるように図形楽譜や曲全体を表す構造図を提示し、可視化することで明確に意識して聴いたり歌ったりできるようにする。旋律の重なりのおもしろさに気づき、楽曲のよさを味わった経験が、高学年での和声の響きや音楽の縦と横の関係に着目し、鑑賞したり表現できるよう学習を進めていきたいと考える。

#### (2) 児童の実態 (男子16名 女子17名 計33名)

本学級の児童は、進んで音楽の学習に取り組み、歌唱では表情に気を付けて、伸び伸びと歌うことができている。しかし、音程の高低を感じ取ることが難しかったり、軽快な歌唱曲では、つい怒鳴り声になってしまったりする時もある。輪唱や簡単なパートナーソングでは、他のパートの声を聴きながら声を合わせて歌うことができている。

器楽では個人差があり、特にリコーダーの運指や読譜に課題のある児童も数名いる。鑑賞の活動においては、自分の言葉で思い描いた様子や曲想の感じ方を伝え合える姿が見られるようになってきたが、音楽を形づくっている要素を聴き取ったり楽曲の構造に気を付けて聴いたりすることは、十分とは言えない。また、全体的に音楽に対する苦手意識を持つ子どもも数名いて、音楽に集中して聴くことが難しい場面が見られることもある。

このような児童の実態を踏まえ、本題材では、2つの異なる旋律を重ねて演奏する学習の働きが生み出す面白さに気付けるように、分かりやすく図形資料を活用したり、身体を動かすなどしながら実感できるようにしたい。そこから、楽曲全体の「音楽を形づくっている要素」を聴き取り、楽曲の構造に着目した学習を身に付けさせたいと考える。そして表現と鑑賞のそれぞれの学びを生かしながら、一人一人が自分の声に自信をもって、友達とかかわり合いながら、心を合わせて歌う喜びを味わわせていきたい。

### (3) 指導観

本題材では、旋律の特徴や旋律の重なりに重点を置いて、児童に感じ取らせたい「音楽の要素のかかわり合い」に気付かせながら、表現と鑑賞を関連付けて学習を進めていきたい。

児童の実態を踏まえ、まずは身近な輪唱曲や楽しいパートナーソングなど、歌声の重なり合う響きを感じ取れる親しみのある楽曲から歌い、「パレードホッホー」では、前半のリズミカルな旋律と流れるようなのびやかな後半の旋律の2つの対照的な旋律の特徴を感じ取り、それらを生かした歌い方を工夫させたい。

鑑賞では、堂々としていて迫力のある「王の行進」と軽快で弾んだ感じの「馬のダンス」のそれぞれの旋律が特徴的な「フェアランドール」を取り上げる。身体の動きを通して、2つの対照的な旋律の違いや音の重なりを主体的に感じ取らせるようにする。また、視覚的にわかりやすくするために、旋律の特徴を図形楽譜でもとらえさせてみる。そして、楽曲の構造を曲全体を表す構造図（進行表）を使って、反復や変化などの音楽を形づくっている要素に着目させながら、楽曲の構造を明確に気付かせ、音楽全体の美しさを味わわせていきたい。

「もみじ」では歌詞が表す秋の情景を思い浮かべながら、1曲の中でさまざまな旋律の重なり方を味わうことができるようにさせたい。そして、鑑賞学習を生かし、それぞれの旋律がより豊かに響き合うように、互いの演奏を聴き合いながら心をつなげて、表現の工夫をしていくようにしていきたい。

### 3 題材の目標

- 旋律が重なり合う響きを感じ取りながら、旋律の特徴を生かした歌い方を工夫したり、互いの歌声を聴いて声を合わせて歌う。
- 旋律の特徴、旋律の反復や重なりによる曲想とその変化を感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴く。

#### 4 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
<p>① 旋律の特徴や重なりに興味・関心を持ち、友だちの歌声を聴きながら、自分の声を合わせて歌う学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>② 旋律の特徴や重なり、反復や変化が生み出す曲想とその変化を感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴く学習に進んで取り組もうとしている。</p>	<p>① 旋律やその重なりを聴き取り、それらが生み出す特徴を感じ取って、互いの旋律が生きるように歌い方を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>① 異なる旋律の重なり合いを感じ取りながら、旋律の特徴を生かして歌っている。</p> <p>② 友達の歌声や副次的な旋律を聴きながら、自分の声を合わせて曲想にふさわしい表現で歌っている。</p>	<p>① 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら楽曲の構造に気を付けて聴いている。</p>

#### 5 研究の視点について

##### 【視点1】9年間を見通した学び方の共有

##### ○音楽の可視化

音楽を鑑賞する際、学習内容をわかりやすくとらえるために、音楽を目に見える形にすることが有効と思われる。その手立てとして本題材では、旋律の特徴や楽曲の全体像を、身体の動きや図形楽譜や構造図（進行表）などを活用して、音楽を可視化する。視覚的に音楽を目に見える形にすることで、音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取る支援になるであろう。指導計画は9年間の見通しをもった鑑賞のあり方を踏まえた視点で作成することが重要であると思われる。

#### 6 指導計画（5時間扱い）

次	時	○学習内容 ・主な学習活動	評価規準
ねらい		旋律が重なり合う面白さを感じ取って歌い、楽曲の構造に気を付けて聴く。	
第1時		<p>「パレードホッホー」</p> <p>○曲の感じをつかみ、旋律の特徴を感じ取る。</p> <p>・範唱CDを聴き、曲の感じをつかむ。</p> <p>・<b>ア</b>と<b>イ</b>の旋律の違いに気付けるように範唱を聴いて、身体を動かしたりして感じたことを話し合う。</p> <p>○<b>ア</b>と<b>イ</b>の旋律を重ねて歌う。</p> <p>・2つのグループに分かれて、<b>ア</b>と<b>イ</b>の旋律が重なり合う面白さを感じ取って歌う。</p>	<p>旋律の特徴や重なりに興味・関心を持ち、友達の歌声を聴きながら、自分の声を合わせて歌う学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p><b>【関一①】</b></p>

第一次	第2時	<p>「パレードホッホー」</p> <p>○2つの旋律の特徴を生かした歌い方を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>ア</b>と<b>イ</b>の旋律の特徴を生かした歌声で表現できるように話し合う。</li> </ul> <p>「ファランドール」</p> <p>○二つの主な旋律の特徴を感じ取って聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ファランドール」を通して聴き、感じたことを発言する。</li> <li>・二つの主な旋律を身体を動かして表したり、口ずさんだりして反復を聴き取る。</li> <li>・それぞれの特徴を発表し合う。</li> <li>・二つの旋律の図形楽譜を見ながら、旋律の特徴をとらえて聴く。</li> </ul>	<p>旋律やその重なりを聴き取り、それらが生み出す特徴を感じ取って、互いの旋律が生きるように歌い方を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。【創一①】</p> <p>旋律の特徴や重なり、反復や変化が生み出す曲想とその変化を感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴く学習に進んで取り組もうとしている。【関一②】</p>
	第3時 本時	<p>○旋律の重なりや掛け合いが生み出す響きの面白さや美しさを感じ取りながら聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二つの旋律がどのように現われるか、身体を動かしながら聴く。</li> <li>・二つの旋律の重なりに気付く。</li> <li>・二つの旋律が重なったときの気持ちについて話し合う。</li> </ul> <p>○楽曲の構造に気を付けて、全体を通して聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2つの旋律がどのようにでてきて、それぞれの旋律がどのような変化をするのかに気を付けて聴く。</li> <li>・曲全体の構造図（進行表）を見ながら、曲の構造をとらえて聴く。</li> <li>・楽曲全体の流れの中でよさや美しさ、面白さを味わいながら聴く。</li> </ul>	<p>旋律の特徴や重なり、反復や変化が生み出す曲想とその変化を感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴く学習に進んで取り組もうとしている。【関一②】</p> <p>旋律の重なりや掛け合いが生み出す響きの面白さや。を感じながら、楽曲の構造に気を付けて聴いている。</p> <p>【鑑一①】</p>
第二次	ねらい 声が重なり合う美しさを味わいながら、合唱する。		
	第4時	<p>「もみじ」</p> <p>○歌詞の表す情景を想像し、主な旋律を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞の内容から得られる情景を思い浮かべる、</li> <li>・範唱CDを聴いて、曲の感じをつかむ。</li> <li>・主な旋律を範唱CDに合わせて歌う。</li> <li>・言葉を大切にしながら、主な旋律を歌う。</li> </ul>	

<p>二 次</p>	<p>○前半の副次的な旋律を知り、前半部分を2部合唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音程やリズムに気を付けて、副次的な旋律の前半部分を歌う。</li> <li>・楽譜を見ながら範唱CDを聴き、前半部分の主な旋律と副次的な旋律の重なり方に気付く。</li> <li>・二つのグループに分かれ、前半部分の主な旋律と副次的な旋律を合わせて二部合唱する。</li> <li>・楽譜を見ながら範唱CDを聴き、前半部分の主な旋律と副次的な旋律を合わせて二部合唱をする。</li> </ul>	<p>旋律の重なりに興味、関心を持ち、友だちの歌声を聴きながら、自分の声を合わせて歌う学習に進んで取り組もうとしている。}</p> <p><b>【関①】</b></p>
<p>第 5 時</p>	<p>○後半の副次的な旋律を知り、後半部分を二部合唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・範唱CDを聴いて、後半部分の音の重なりを感じ取り、前半と後半の旋律の重なり方の違いに気付く。</li> <li>・楽譜を見ながら、副次的な後半部分の旋律を歌う。</li> <li>・二つのグループに分かれ、後半部分の主な旋律と副次的な旋律を合わせて二部合唱する。</li> </ul> <p>○互いの演奏を聴き合い、よりよい合唱になるように表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旋律の重なり合う響きを味わいながら、全員で二部合唱する。</li> </ul>	<p>旋律やその重なりを聴き取り、それらが生み出す特徴を感じ取って、互いの旋律が生きるように歌い方を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図を持っている。<b>【創①】</b></p> <p>友達の歌声や副次的な旋律を聴きながら、自分の声を合わせて、曲想にふさわしい表現で歌っている。<b>【技②】</b></p>

7 本時の指導

(1) 本時の目標 (3 / 5)

○ 2つの旋律のかけ合いや重なりなどの音楽を形づくっている要素に気付いて聴く。

(2) 展 開

学習内容と学習活動	○教師のかかわり ◇評価規準
<p>1 二つの音が重なり合う響きを楽しんで既習曲「パレードホッホー」や「林の朝」を歌う。</p> <p>2 前時の学習内容を確認する。 ・「ファランドール」の鑑賞で聴いた二つの旋律の主な部分を聴いたり口ずさんだりして、特徴を思い出す。</p> <p>3 本時のめあてをつかむ。</p>	<p>○ 友達の声をよく聴きながら、合わせて歌うように指示する。 ○ 旋律の重なり方を確認する。</p> <p>○ 前時の学習で感じ取った二つの旋律の特徴を明確にするために、図形楽譜を掲示する。</p>
<p>「王の行進」と「馬のダンス」の二つのせんりつがどのように曲の中に出てくるか、ききとろう。</p>	
<p>4 曲の仕組みをとらえる。 ・ 二つの「王」と「馬」の旋律の違いを聴きとる。 ・ 二つの「王」と「馬」のグループに分かれて、それぞれの旋律が出てきたら、グループ毎に立ち上がる。</p> <p>・ ペープサートを上げながら、全体を通して聴く。</p> <p>・ 実際に声を出して確かめる。</p> <p>5 曲の特徴を理解し、味わって聴く。</p>	<p>○ ペープサートを使って、違いに気付いているかを見る。 ○ 最後の部分の二つの旋律の重なり気付かせる。 ○ 全体の様子を見て、視覚的に重なっていることに気付きやすくする。</p> <p>○ 児童の様子を見ながら、構造図に「王」と「馬」を貼る。</p> <p>○ 2つの旋律の特徴や構造を意識しながら聴き、味わえるようにする。</p>
<p>6 次時の活動を知る。</p>	<p>◇ 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲の構造に気を付けて聴いている。 【鑑賞の能力①】</p>